

平成 26 年度 第5回小田原市エネルギー計画検討会 会議概要

日時：平成 27 年 2 月 18 日（水）15:00～17:00

会場：小田原市民会館 6 階 第 7 会議室

出席者(五十音順 敬称略)

・小田原市エネルギー計画検討会 構成員

飯田哲也、石田昌宏、内田治光、大寫啓介、志澤昌彦、鈴木こころ、鈴木伸幸、立山和也、
西山敏樹、原正樹、古川剛士、水野雅人

・小田原市事務局

環境部長、エネルギー政策推進課長、エネルギー政策推進課副課長、エネルギー政策推進
課係長、エネルギー政策推進課係員1名

結果概要

<1 開会>

<2 座長あいさつ>

- エネルギー計画の検討は、この年度末に、皆様のご協力により完了することになる。
本日は、目的の実現に向けてどのような取組をするのか、計画推進に向けた体制づくり、
今後のスケジュールについてご議論をいただく。前回、「Plan」、「Do」、「Check」、「Acti
on」の4つについて議論したが、「Plan」の部分がようやく終わり、次に「Do」、「Check」と
進んでいくわけだが、計画の推進ということで、今後どうやっていけばよいのか、今が点だ
とすれば線や面にするにはどうしたらよいのかご議論いただきたいと思うので、引き続きよ
ろしく願いたい。

<3 議題>

(1)目的の実現に向けた取組について

- 事務局から、資料1-1及び資料1-2に基づき、説明があった。

(質疑や主な意見)

飯田構成員 全体としては、非常に良くなってきたのではないかと思います。大きなビジョンのところ
では、前回も発言したが、自給率50パーセントについては、残りの50パーセントを他地域と
の連携によって100パーセントと書くなど、広域でのエネルギーの供給が読み取れるような
ことを入れてもよいのではないかと。

17 頁にある 2022 年度のリーディングプロジェクトについてコメントをさせていただくと、ま
ず、第5章-1-(2)-1)の、「①市有施設・広域避難所への率先導入」について、廃棄物
は発電だけではなく、熱利用もあるので、発電に限定せず熱利用ということも入れた方がよ
いのではないかと。また、市の率先導入というのは、市が勝手にやったからといってなかなか
普及しない。ほうとくエネルギー(株)が行なったように、行政の率先導入が民間企業の取組

を促していく、初期需要を創出する(市場創出)という意味合いで書いた方がよい。

「②再生可能エネルギーのスムーズな導入」については、窓口を置くだけでは十分に機能しない。ここには庁内横断の体制を整えるというようなことも盛り込むと、それを根拠にほかの部署にも迫っていける。長野県では小水力のプロジェクトの現場に、関連するすべての部局の担当者が一同に会して、その場ですべての問題を解決するというをやっている。そこまで具体的に書けとは言わないが、組織横断みたいなキーワードが入っていた方が次につながる。

「③市民が参加可能な仕組みづくり」は、「未来へつなげる担い手の育成」にもつながるが、仕組みだけではなく、今回、ほうとくエネルギー(株)が生まれてきたような場づくりみたいなものも視野に入れた方がよい。

「④地域にひとつ！地域再生可能エネルギープロジェクト」は非常に素晴らしい。前回、これに似たような提案をさせていただいたが、こういうのがあるとよいと思う。

「⑤エネルギーツーリズムの実現」もよい。

「⑥再生可能エネルギー熱の利用の研究」は、熱はすでに研究の段階ではなく、どう普及させるかである。

「⑦水素エネルギーの利用の研究」は、水素ははっきり言えば、当たるも八卦当たらぬも八卦で、私は外れると思っている。2)－④「スマートグリッド」もそうだが、「取り組む施策」とはせずに、資料1－2とのイメージ図とつなげて考え、これが新しいビジネスモデルというか、新しい事業機会になるというような要素がもう一つあったほうがよい。「新しいビジネスが生まれるための場づくりを支援します」ということを加え、そのなかの一例として水素とスマートグリッドを出した方がよい。

「2) 省エネルギー化の推進」は、率先行動と効率化だけではなく、仕組みについても触れる。長野県がたぶん一番進んでおり、住宅の新築・改築の際には、再生可能エネルギーの検討義務があり、大規模事業所に関しては導入義務が条例に入っている。そこまで具体的にしなくてもよいが、そういう仕組みによって省エネや再エネが進んでいく。住宅の燃費表示など不動産取引の時に表示をすることによって、ランニングコストを意識した住宅が高く評価されるなど、制度や仕組みはいろいろある。再エネの仕組みづくりばかりではなく、省エネの仕組みづくりもぜひ入れていただきたい。それも含めて、建物の省エネ構造を進めるというのが大事。それが今全く入っていないので、ぜひ入れていただきたい。

事務局 まず確認させていただきたいが、1点目については、例えば県西地域や二市八町など、近隣の市町村との連携という理解でよろしいか。

飯田構成員 よい。

事務局 廃棄物発電については、熱の利用について盛り込むことも可能かと思う。また、窓口についても、当然窓口だけで終わらずに、庁内横断的に対応することが必要となるので、盛り込んでいきたい。熱の普及についても承知した。水素エネルギーとスマートグリッドについても、新しいビジネスの創出ということでよいか。

飯田構成員 水素エネルギーなどについて「研究する」と表記されているが、基本的に市が研

究をするわけではない。新しいビジネスを目指すのは民間企業の人が集まって生み出していくので、そういう場づくりをするということを含めて書く。行政としてできることとして、「創造、研究の場を支援します」といった書き方にした方がよい。

事務局 省エネについての仕組みづくりについて、長野県の事例を紹介されていたが、実際には、そこまで盛り込むのは難しい。

飯田構成員 県でできるレベルと市でできるレベルがあるので、そこは市ができる範囲でということであって、とりあえず仕組みづくりとさえ入っていれば、具体論は入っていないでもよい。

事務局 神奈川県の場合は、ハートビル法でバリアフリーなどが義務付けられるが、市レベルで義務化すると、その分余計に事業者が費用がかかる。その辺をどう整理するか。規制緩和というか、市が誘導するという意味では、素材としては入れさせていただく。

古川構成員 前回の議論で、PPSの積極利用という表現について、外すみたいな話が出ていたが削除したのか。

事務局 具体的すぎるので、アクションプランなどに盛り込んでいきたいと考えている。

古川構成員 ほかに削除したところや後回しにしたところはあるのか。

事務局 基本的にはそれくらいである。

古川構成員 2050年度のイメージ図について、エネルギー計画ができた時に、市民の目につくのは、文章よりもこういうものだと思うが、市民代表の二人から見て、どう思うか教えていただきたい。

鈴木(二)構成員 文章で見ていた時よりは、イメージしやすい。ただ子供など若い人からから見ると固い。子供は絵から入っていく。気になった絵に文字が書いてあるとついでに読んだりする。

西山座長 絵に人が入っていないとそう感じる。主役が見えてこない。人がいないと絵に温かみなくなるので、人を入れることはできないか。子供が次代を担うと言っている以上は、そういう雰囲気をもう少し出していきたい。

鈴木(二)構成員 子供用に、もっとわかりやすい簡単なものを横につくるとか。

西山座長 子供版をつくるとか、一般的に小学校5、6年生くらいがわかるものだと良いと言われている。

立山構成員 パソコンで見ていた時は、カラーだったのでわかりやすかった。1枚だけで表現しようとするとうまくも限界がある。

西山座長 インputが中心になっている。アウトputとして「小田原らしい個性ある再生可能エネルギーの利用が広がっています。」と書いてあるが、インputとアウトputを分けて表現しないとイメージが伝わらない。この結果がアウトputとしてこうなると表現されていけば、子供たちにもわかりやすい。これがあるからこういうふうになると、仕組みと結果が別々になっていた方がよい。二人からの意見はそういうことだと思う。

これは白黒か。カラーで挟むということによいか。

事務局 よい。

内田構成員 基本計画だと取組はこういう形になるのかなと私は感じているが、いろいろなも

のがてんこ盛りに感じる。絵で見て「小田原らしい個性ある・・・」というのが気になる。何が個性なのかという感じがする。

西山座長 結果的に皆の議論が積み重なってくると盛り込みすぎてしまって、優先順位がわからなくなってしまう。計画の位置づけというのはとりあえず、今はこれくらいのことを考えておかなければいけないということで結審して、アクションプランを考えていくときに少し優先順位をつける。そういう位置づけでよろしいのか確認しておいた方がよい。

事務局 盛り込みすぎと言えば盛り込みすぎだが、これくらいの考え方を基にこれから取り組んでいきたい。具体的にそれを進めていくためにどうやっていくかが、アクションプランだと思っている。

西山座長 皆さんもそういう認識でご同意いただきたい。

立山構成員 飯田構成員の言われた他市の取組なども入れた方がわかりやすくなるのではないかな。

西山座長 他の自治体の事例は、この報告書に加えることはできるかな。

事務局 やり方はいろいろあると思う。この冊子の中に入れるのか。あるいは資料編とし別冊にするのか。

西山座長 載せないか載せるかで言うと、私は載せる方向で何か考えていただきたい。

事務局 後でメールでも構わないので、皆さんから何か事例をいただければありがたい。

飯田構成員 いくつか見繕って送る。

西山座長 市の役割というところに入るのではないかなと思うが、飯田構成員の言われた仕組みやシステムを入れていくとしたら、一番大事なものは「Plan」、「Do」、「Check」の「Check」である。やっていることを検証評価して、どんどん良くなっていくイメージにしていくことが大事だと思うが、そういう時に検証評価を市が主体となって行うことを入れられないかなと思う。市内での取組を常に検証評価する目を持つのは、市が客観的にやるべきではないかなと思うが、それが入っていないので、入れていただきたい。

鈴木(伸)構成員 「2-②市民の役割」について、語尾がすべて「努める」となっている。

西山座長 それを言ったら事業者も「努める」。義務と努力の関係があるが、その姿勢が市としてこの段階で強めていけるのか。そのスタンスをどう出すかの問題だと思う。もう一步踏み込めるのか、それが無理だということであれば「努める」になってしまうと思う。

鈴木(伸)構成員 今現在、全国的な状況では、小田原は進んでいるのか、遅れているのか。

飯田構成員 長野県は県なので、その違いはあるが、小田原市は市町村レベルではトップランナーだと思う。したたかにやっているのは宝塚市や下川町。下川町は人口も少ないということもあるが、下川町株式会社みたいなものがあり、自由自在に何でもできる。それは大きな行政では無理なので、そういった意味では小田原と宝塚はスケールとしてはかなり似ている。宝塚は条例をつくり、地産地消の電気を優先的に選ぶという仕組みづくりに今度取り組むので、ちょうどよいライバル関係だと思う。小田原は、条例はできており、次に計画ということで、割とよいペースではないかなと思う。

大島構成員 「したたか」とはどういう意味か。

飯田構成員 積極的という意味。積極的にやろうとしても庁内や議会の壁などでできなかったりする部分も、市長や部長、担当者がうまく反対する議員を説得しながら進めていく。

西山座長 「努める」というご意見についてはどう考えるか。

事務局 再エネ条例では市民や事業者の部分では努力規定までが精一杯だった。義務規定まで行くと実際にどう実現するのか。先ほど「したたか」と言っていたが、計画は構想段階であるから、全体の方向性を示しているということで「努める」というフレーズを使って、これからのプロジェクトレベル、現実レベルで、実際にできるかはわからないが義務という形にする。義務にするといろいろな調整が必要となり、時間がかかるので、できればこの段階では方向性を示すという意味で「努める」としたい。将来的に義務ということを考えていないわけではないということをご理解いただきたい。

飯田構成員 主語は「小田原市」なので、市は「市の役割」でよいと思うが、市民と事業者の「役割」については、「市民に期待する役割」や「事業者に期待する役割」のほうがよいのではないか。「努める」についても、上から目線で言っているのではないような表現に変えた方がよいのではないか。

西山座長 自発的になっていくような雰囲気づくりみたいなトーンということでしょうか。そういう方向で考えていただく。

志澤構成員 16 頁にある「がんばる目標」というのは、後ろ向きなので、そういうことをやったことによって経済も回っていき、ビジネスに繋げることも可能という前向きな形にしておいた方がよいのではないか。

先ほど長野県の話があったが、ファイナンスなどお金の仕組みについてもお願いしたい。

飯田構成員 そういう意味で言うと、昨日のクローズアップ現代でも放映されていたが、人口約 3,500 人の下川町で燃料費 10 億円使っているのを、総務省の補助金も使って市街地全域で熱供給することによって、燃料代が地域の中で回って、120 人の雇用が生まれるなど 28 億円の経済効果が見込まれているという。そういうポジティブな部分が前半にあって、地域の中でエネルギーによりお金を回す仕組みづくりをするなどとすると、つながっていくと思う。

西山座長 見方によっては、お金とはつながらないのではと感じる人もいるので、意識を変えるようなことと、可能性があるみたいなことを書いておく。

(2) 計画推進に向けた推進体制について及び(3) 計画策定に向けた今後のスケジュールについて

- 事務局から、資料2及び資料3に基づき、説明があった。

(質疑や主な意見)

古川構成員 (仮)エネルギー計画推進会議の役割について、アクションプランを作成するのは、この会議になるのか。

事務局 計画はここで一回、大枠ということで策定する。その後、計画を推進していくためにはアクションプランが必要となってくるが、そのアクションプランを、(仮)エネルギー計画推進会

議として、皆さんとともに策定していきたいと考えている。

内田構成員 アクションプランの策定にあたっては、今後、いろいろなプロジェクトがアクションプランとして出てくると思うが、その目的に応じて集まる人材は変わってくると思う。それをこの会議体でやっていいものかどうか。

西山座長 そこは今すぐというわけではないが、基本的にアクションプランの大まかな方向性を決めるのがここであって、計画に実行性を持たせるために何をやるのかと大まかに決めるのはこの会でいった方がよいと思う。推進会議の役目が見えてこないのだと思うが、ここはセットだと思っていただきたい。

内田構成員 優先順位を決めるとかそういうことか。

西山座長 そのために、継続性はあった方がよいので、引き続き、皆さんにお願いできればありがたい。

鈴木(伸)構成員 環境審議会とはどのような会議体か。

事務局 条例上、市の附属機関であり、市長の諮問機関として位置づけている組織である。エネルギー問題もそうだが、ごみの問題や環境にかかるプランなどを審議する。

西山座長 答申までにパブリックコメントもやらなければならないが、紙だけではなく、以前、飯田構成員と市長で公開アドバイザーを行ったが、時間もだいぶ経っているので、時間変化や、今、行っていることを示すなど、公開的な場もあった方がよいのではないかと思う。

志澤構成員 2022年度までの目標を達成するためには、プランづくりはかなり戦略的にやらないと厳しい。アクションプランの位置づけは、エネルギー計画に定められたプランということで、エネルギー計画にぶら下がるということによるのか。

事務局 よい。

西山座長 意味合いとしては、ここで骨子ができ、これに第2部みたいに位置づけが加わってくるような感じ。

古川構成員 そういう意味で言うと、ある意味シンボリックなものを、あえて出した方がよいのではないか。これでは大雑把すぎてしまってコメントが来ないのではないか。

西山座長 例えばエネルギーツーリズムなどは、割とまだ波及していないと思うが、事例を作るためアクションを起こし始めてしまうとか、そういうことは考えられるのか。観光客が増えて潤うみたいなことを出す。(仮)エネルギー計画推進会議はそういうことを話し合う場になるのではないか。

事務局 エネルギーツーリズムがすぐにできるかという正直難しい。

飯田構成員 私はすぐにできると思う。研究というよりもパイロットプログラムを作ってスタートさせる。どういう形でプログラムを作るかは他市の事例などですぐ調べられると思う。

内田構成員 例えば、ここに協働とあるが、ほうとくエネルギー(株)のことなど、具体例で示すとわかりやすい。議論するのにやりやすいのではないかと感じる。

西山座長 今日の議論を伺っていると今の段階では抽象的で、実現の感覚がないからわかりにくいのではないかと思う。

水野構成員 資料2のところ、市、市民、事業者の図があるが、事業者と市民は双方向の矢印

になっているが、市からは一方的な矢印になっている。

西山座長 ではみんな双方向に直していただくということで。

石田構成員 事業主として、こういう計画を作って 2022 年に小田原のまちがどういう形になっているのかが見えない。現状とは変わってくると思うが、どのように変わっていくのか頭の中に浮かばない。

事務局 市内で再エネを進めていきたいというのが大前提にあり、行政だけでは進まないのも、市民、事業者の取組も必要になってくる。みんなで取り組めるような体制づくりを整えていきたい。

石田構成員 取り組んだ結果、小田原市がこう変わったというところが見えない。

西山座長 やはり先ほど言ったようにインプットがあって、アウトプットとしてどう変わっていくのかが示されていないから見えないのだと思う。想像の世界にはなるが、これをやることによって市民の生活がこう変わりますとか、そこはちょっと考えて入れておいた方がよい。

事務局 これによって市民生活がどう変わるのかわかりにくいと思う。市民が一番わかりやすいのは、これによって生活の何が変わるか。電気代が変わるとか、これによって地域の雇用が増えて、地域のコミュニケーションが生まれたり、おじいさんと子供が草を抜いて、地域の太陽光発電としてきれいにしているなど。それをどうやって示すのかという難しいのだが、小さいお子さんと一緒にやっている絵であるとか、そういったことで表現できればと思う。

西山座長 人の目線で、小田原のライフスタイルはこう変わるということを表現する。それはこの先の議論で、また皆さんに意見を言うていただくような形にさせていただきたいと思う。

大島構成員 その発端は3.11東日本大震災。市民生活に多大な影響を及ぼしたということが根っこにある。災害時でも最低限の機能を維持するために、でもそれだけではつまらないからそれを梃にもっと良いまちづくりをしようとしている。スマートシティプロジェクトで柏の葉スマートシティを視察してきたが、あそこまではなかなかできない。しかし、そういうことをやることによって市民のライフスタイルが良い方向に変わっていくための一つのステップにしなければならないと思う。それによって、市民の意識が変わって、安全安心なまちができるといった方向に持っていきたいというのが行政の思いだろうし。それを市民に知らしめるのはけっこう手間だと思う。

原構成員 私も一緒に柏の葉に行ったが、スマートシティが発しているメッセージは、究極的には「ここに住みませんか」ということ。環境都市として開かれた小田原を発信する。ただでさえ人口が減っているのに、それに歯止めをかけるといったテーマを加えてもよいのではな

いか。

西山座長 先進都市は3C ができている。自分のことを良く認識し、問題もわかっていて再構築、整理できて、伝達、発信していける。「Cognition」認識と、「Construction」整理的な再構築、「Communication」発信していける。新しいところではそれができているので、それを意識していかなければならない。常にそれを絶え間なく皆がやっているということが必要な気がする。柏の葉スマートシティの発信能力はやはり素晴らしいと思っており、東京大学なども来ていて、街の雰囲気も変わってきている。オープン性があるというのは大事であるので、こ

れも他市の事例として載せてもいいかと思う。

志澤構成員 段取りの確認だが、今回の素案の策定をもって、この会議は一旦解散ということによろしいか。ただ、ここで、環境審議会の答申とパブリックコメントによって、計画内容の変更もあると思うが、その作業は(仮)エネルギー計画推進会議に移るということによろしいか。また、アクションプランによっては計画自体にいじくりがあるのかなという気が若干するのだが。

西山座長 アクションプラン自体はパブリックコメントはいらないのか。

事務局 想定していない。

西山座長 (仮)エネルギー計画推進会議があれば、もしパブリックコメントで何かあったとしても、このメンバーならわかるので、ここはなるべくこのメンバーでなんとかがんばっていきたいと思う。

志澤構成員 次の会議の時にはそういったことも含めて、最低でも連携計画となっている低炭素都市づくり計画や中心市街地活性化基本計画などの所管には参加していただき、これはエネルギー計画でやりましょうとか、これは低炭素でやりましょうとか、そんな感じのやりとりはあるのかなと。

西山座長 6頁にある他部門の計画や、お金のことや観光のことも絡んでくるので、それなりの課の職員を出していただかないと議論が進まない。そういう会議体になると思っている。前回のワークショップでは財政課が出てこなかったが、財政課には参加していただきたいというのは私の希望である。

事務局 (仮)エネルギー計画推進会議は、議論する内容によって、所管が参加するようにしたい。運営の仕方については、事務局に任せていただきたい。

古川構成員 それと併せてお願いしたいのは、市長の肝入りでこの会議がスタートしているので、今回の出てきた内容についての市長の評価を聞きたい。その上で、次の進め方によっては関連する部署にも絡んでいただくことなど、そこは強く言ってもらいたい。市長の覚悟を見ておきたいと思う。

西山座長 それも大事だし、計画の最初に市長の思いを書き入れてほしい。市長の覚悟があってやったのだということを残したい。それはぜひお願いしたい。

事務局 この会議については、市長も気にされており、会議概要を渡している。市長に時間が取れば一番よいが、この会議の内容については市長と調整しながら進めている。ただ、市長の気持ちと予算への反映は別の問題なので、その点をご理解いただきたい。

<4 その他>

- 事務局から
今回、修正した部分については、皆さんに示させていただく。
- 環境部長からの謝辞

<5 閉会>